

販売209億円、過去2番目 乳量は11万トン突破 J A 鹿追町

2019年5月26日

J A 鹿追町(木幡浩喜組合長、正組合員275人)の通常総会が24日、同 J A で開かれた。2018年度の農畜産物販売高は17年度比3.2%減少したものの、209億9662万円で17年度に次いで過去2番目に多かったことが報告された。

主力の酪農は、胆振東部地震による停電で乳房炎が増加するなど影響があったものの、年間乳量は前年度を上回り3年連続11万トンを突破。販売高は106億255万円(1.5%増)だった。畜産では、肉豚の取扱頭数が増加したが、相場が低く推移。一方、肥育牛は頭数が減少したが枝肉相場が堅調だったため、金額は前年を上回った。酪農・畜産全体では155億9741万円(1.3%増)だった。

畑作は、過去最高だった17年度の反動もあり14.4%減の53億9920万円だった。6、7月の低温・長雨の影響があったが、その後の天候回復で小麦・菜豆類以外は平年作に近い収量を確保。ビートは平年を上回り、加工業務用キャベツも計画を上回った。

経常利益は4億2059万円、当期末処分剰余金は4億1808万円。

第10次農業振興計画(17～21年度)で計画していた大型の設備投資は昨年度までに終了。今年度は、2月に完成しA I(人工知能)による選別機能を備えた種子用ジャガイモ貯蔵施設や、3月に着工した第2 T M Rセンターの稼働開始を予定している。

総会には委任状を含め201人が出席。木幡組合長はいさつで、労働力不足など農業を取り巻く厳しい環境に触れ、「人とのつながり、強い現場力など鹿追らしさを力に、組合員・町民の理解・信頼の下で今年の事業を推進していく」と述べた。

販売額 初の60億円超 肉牛高値や生乳生産堅調 J A 陸別町

2019年5月29日

J A 陸別町(西岡悦夫組合長、組合員109人)の今年度通常総会が28日、同 J A で開かれた。2018年度の農畜産物総販売額は、肉牛市場価格の高値推移や堅調な生乳生産などで60億7000万円(前年度比2.4%増)と過去最高を記録し、初めて60億円台の大台を突破した。

生乳生産は、機械化の進展により生産基盤が強化されたことから、前年を上回る4万1307トン(同0.5%増)を記録、販売額は37億8700万円だった。生産戸数は47戸。畜産販売は22億4700万円(同4.2%増)。ビート、小麦などの農産物は3600万円。

経常利益は、北海道胆振東部地震によるブラックアウトに伴う生乳廃棄の影響で、前年度比約15%減の7774万円。当期末処分剰余金は7644万円。

今年度の生産目標は、生乳4万2584トン、39億8160万円(受託予定額)、肉牛販売4955頭、20億151万円(同)を計画した。また、欠員となった理事に、田守健一氏(47)を選任した。

総会には、代理人、書面議決を含め92人が出席。西岡組合長は過去最高の販売額を達成したことに触れ、「組合員の日頃のたゆまぬ努力と生産意欲の向上のたまもの」と感謝した。

販売高が最高更新 137億円で5年連続増 J A 大樹町

2019年5月31日

J A 大樹町(坂井正喜組合長、組合員286人)の第71回通常総会が30日、同 J A 事務所で開かれた。2018年度の取扱販売高は137億4590万円と過去最高だった17年度を3.5%上回り、5年連続で増加した。生乳生産量は2年連続で10万トンを突破する10万7938トン(前年度比5.1%増)と過去最高を更新した。

取扱販売高の内訳では、生乳が5.9%増の91億8480万円、肉用牛などを含めた畜産の合計は3.7%増の122億4120万円となった。農産物は2.1%増の15億470万円だった。

生乳生産は、一番草・二番草や飼料用トウモロコシの収量が例年に比べて減収となる中、年度目標を大きく上回った。育成・初妊牛や肉牛は高値傾向が続いている。農作物はビートが収量、糖分とも平年を上回った。

当期剰余金は1億6873万円、前期からの繰り越しな

どを加えた当期末処分剰余金は1億8273万円だった。

新年度は、第9次地域農業振興計画(17～21年度)で掲げた生乳生産12万トン、総取扱販売高140億円の早期達成を目指す。

総会には委任状、書面を含む259人が出席。坂井組合長は「国際貿易交渉の推移を注視しながら、力強い農業、豊かな魅力ある農村づくりを進め、安全安心な食料生産に努力したい」とあいさつした。